

ペットとの暮らしを活用する豊かな社会 — それを可能にする環境整備 —



感謝状贈呈

○司会 第2部事例発表の前に、お時間を頂きまして、感謝状贈呈式を行います。パソコンの入れ替えなどの準備をいたします間、少しお時間を頂きます。お手洗いなど、お立ちいただいて結構です。

それでは、公益社団法人 Knots より、加藤元先生、柴内裕子先生に感謝状をお贈りさせていただきたいと思っております。

加藤元先生は、ダクタリ動物病院総院長で、コロラド州立獣医科大学客員教授兼アンバサダーを務めておられます。

柴内裕子先生は赤坂動物病院名誉院長で、公益社団法人日本動物病院協会の相談役を務めておられます。

お二人には、Knots が神戸市より管理運営業務を受託している「こうべ動物共生センター」の「セラピー研究フィールドアドバイザー」をお務め頂いております。

「人と伴侶動物の共生の流れ」のスライドをご覧ください。

加藤先生、柴内先生、ともに、歴代の会長を務めてこられた日本動物病院協会は、1978年創立の後、1987年に社団法人許可を取られました。新たな日本の人と伴侶動物の共生がここからスタートしたと言っても過言ではありません。当時は、犬がまだ外飼いであった頃です。この後、第一次ペットブームがあり、だんだん室内飼育へと転換していきました。

この頃に先ほどご覧頂いた阪神・淡路大震災が起こります。

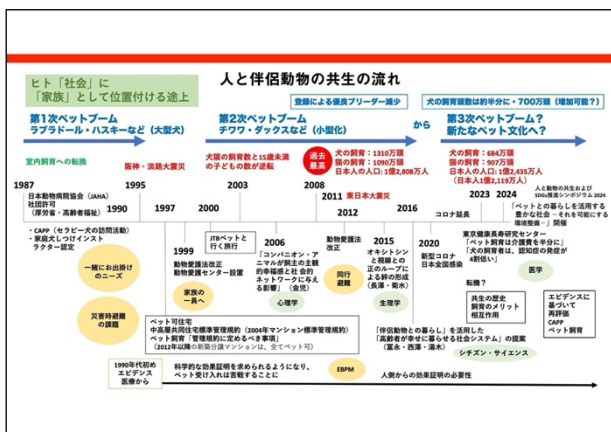
日本動物病院協会は、動物病院を核として地域への社会活動を推進されており、共生社会の実現に必要な、二つの大きな柱をお持ちです。

ひとつは、人と動物のふれあい活動（CAPP Companion Animal Partnership Program 活動）。所謂、アニマルセラピーと言われることもありますが、高齢者施設、病院、学校などを訪問し、動物のもつ温もりや優しさにふれていただくボランティア活動です。

全国の会員動物病院を中心に、飼い主のボランティアの皆さまと行っておられます。現在まで23,000回以上実施され、無事故で継続されています。

もうひとつは、ヒューマン・アニマル・ボンド（人と動物の絆）の理念に基づいた「ほめてしつける」方法による「家庭犬しつけインストラクター」の認定です。このインストラクター養成コースは日本でも最高レベルとして知られています。

神戸にはこの講座の1期生の方が多くいらっしゃいます。





「こうべ動物共生センター」では、1期生の村田香織先生、中塚圭子先生、高山美左先生、笠木恵子先生にご指導を賜っております。

また、その後が続かれています近藤悦子先生、渡辺ひろこ先生にもご尽力いただいております。神戸に、このような専門家が揃っておられ、サポートや連携が可能となっているのは、大変心強いことです。このようなサポート体制があることが、神戸での共生プラットフォーム実現の可能性を高めています。

本日、会場に、現在の日本動物病院協会会長の宗像先生と、元会長の細井戸先生がお越しくださっています。

先生方、本日はお忙しいところ、ご参加いただきありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、加藤元先生、柴内裕子先生にご登場いただきたいと思ひます。柴内先生はオンラインでのご登場となります。

皆様、拍手でお迎え下さい

加藤先生、柴内先生には、長きにわたり、Knotsの事業にアドバイスを賜り、大変お世話になっております。この機会に、先生方への感謝の気持ちを形にさせて頂き、感謝状をお贈り致します。